

12月3日(日)日中友好協会倉敷支部映画会 台湾映画「セデック・バレ」第2部「虹の橋」

映画「セデック・バレ」の解説

構想10余年、日本統治下の台湾で起きた壮絶な事件を映像化！価値観が乱される4時間半！！

2011年、第48回台湾金馬獎にて最多11部門にノミネートされ見事グランプリを受賞、大ヒットを記録して台湾中を沸かせた1本の映画があった。ヴェネチア国際映画祭のワールドプレミア上映では世界の映画人たちを驚かせ、ここ日本でも、第7回大阪アジア映画祭にて超満席の熱狂のなか圧倒的な支持を得て観客賞に輝いた映画——それが『セデック・バレ』だ。

1895年から50年間続いた台湾の日本統治時代。そのなかで起きた原住民族による武装蜂起「霧社事件」を描く本作は、二部構成の4時間36分に及ぶ台湾映画史上最大の歴史大作である。第一部では苦しい生活を強いられてきたセデック族の人々が部族の誇りをかけて蜂起するまでが、第二部では日本の警察と日本軍による報復、憎しみや家族愛といった感情が交錯するなかでセデック族の人々を襲う悲劇が描かれる。

監督は長編デビュー作『海角七号／君想う、国境の南』で台湾映画史上歴代第1位の大ヒットを記録したウェイ・ダーション。彼は、霧社事件を扱った漫画を読み、血がたぎるような思いにかられて映画化を決意したという。1999年から制作に取りかかり、『海角七号～』をヒットさせることで自らの実力を証明して出資を募った。こうして遂に、国際的に活躍する映画監督ジョン・ウーがプロデューサーに加わることとなる。また、日本映画美術界を代表する種田陽平がプロダクションデザインを担当。徹底した時代考証に基づき、壮大なスケールで霧社の村を見事に再現した。

セデック族の人々を演じるのは、多くが演技未経験の台湾原住民たち。脇を固めて彼らを支えるのは、日本から参加した安藤政信、木村祐一、河原さぶ、そして原住民族の血を引くビビアン・スーといった豪華キャストだ。さらに、『海角七号～』の田中千絵や、マー・ルーロンなども特別出演。構想から10年以上、アジアの映画人が結集し、並のエンタテインメントを凌駕する一大巨編が誕生した。

日本と台湾の悲劇的な過去を描いた映画でありながら、本作は日本でも大ヒットを記録。全国約50館で上映、渋谷ユーロスペースやパルコなどでアンコール上映が決定する。注目の作品となった。

『セデック・バレ』とは、“勇気”の物語。これは、死を覚悟した人々のために戦った者たちの生き残りの物語。その凄まじいまでの生き残りに何を訴えかけるのか——。

参加者の感想

70代以上男性

「迫真の強い迫力と情熱が伝わってくる映画でした。セデック族の狩猟民族としての自然観、祖先・子孫を熱く礼拝し、崇う民族性が、美しい歌声、バックミュージックによって溶け込んでくる感じがしました。感動を呼ぶ映画でした。また、日本の台湾占領・支配の歴史の一コマを忘れてはならないと思います。犬飼先生の解説と毎日新聞の記事もよかったです。」

70代以上女性

「霧社へは若い時、夫と2人で行ったことがあります。モーナ・ルダオと勇者・子供たちの像がありました。実際にその場を踏むことが夫の主義だった。その場の空気を吸うことなど話していました。ご老人は日本語を話していました。」

70代以上男性

「正義も非道もない。敵も味方もない。人間とは残酷、無慈悲な存在だと教えられた。それにしても、わが日本人が、かの地で生き地獄をもたらしたことに心を痛める。関東大震災での『福田村事件』、日本民族の罪の深さにただただ心が痛むのみ。」

70代以上女性

「ただ日本軍と戦ったというだけでなく、セデックの人々の生活、誇り、愛など心にしみました。また音楽がすばらしい、民謡だろうか？いつまでも心に残る映画です。戦争というより、人間のむごさも力強さも悲しさも。深い映画で感動しました。ありがとうございました。」

70代以上男性

「台湾の歴史については情報が少なく、皆無であった。霧社事件については、この映画で初めて知った。当時の日本と台湾の関係について、もっと知りたいと思った。映画にも歌っていたが、子々孫々伝えていくことの大事さを感じた。この映画はあまりにもむごい場面が多かった。」

1014
2024/1/15

日中友好協会岡山支部
http://rizhongyouhao.jp
メールアドレス
rizhongyouhaoxiengkayama@ya

今後の予定

1月13日(土)	日中友好協会第1回理事会	10:00～17:00	オンライン
1月20日(土)	日中友好協会倉敷支部理事会	14:00～16:00	倉敷公民館
1月21日(日)	日中友好協会岡山支部理事会	10:00～12:00	岡輝公民館
	岡山支部「中国映画を見る会」	14:00～16:40	岡輝公民館
1月23日(火)	日中友好協会井笠支部準備会	14:00～16:00	出部公民館
1月30日(火)	日中友好新聞発送作業	10:30～12:00	民主会館

70代以上男性

「セデック族の誇りと魂はよくわかった。台湾映画としては素晴らしいものだった。だが日中友好協会としては、この映画を宣伝するのはどうかと思った。」

70代以上女性

「戦いばかりで疲れた。同じ民族どうして戦っていたり、どうなっているのかわからなかった。(日本人にお金をもらった?)戦いとは死がついている。今の戦争も、毎日何十人何百人もの人が無くなっている。」

70代以上男性

「第二部の虹の橋では、日本統治下の台湾で起きた壮絶な事件を映像化したものであるが、価値観を乱される。1895年から50年間続いた台湾の日本統治に対し、原住民族による武装蜂起のすごさ、お互いが殺しあう戦いのむごさ、むなしさを教えられた映画であったと思う。それを思うと、ロシアとウクライナまたイスラエルとガザ地区・ヨルダン川西岸地区の戦争は早く終わらせないといけないと思うこの頃である。



左から三宅さん、貝吹さん、山根さん、益田さん

芳田日本語教室望年会

貝吹佳代子

十二月十二日、芳田教室で、三年ぶりの望年会を五人で開きました。それぞれが作る料理は決めていたので、とても手際よく、でも口も動かしながら七品の料理が出来ました。

白菜・玉ねぎ・人参等の野菜たっぷりの八宝菜。大根・ごぼう・こんにやく等の根菜類いっぱい豚汁。中華包丁で塊の豚肉を5ミリの厚さに手際よく切って作られた、回鍋肉。豚肉と豆腐たっぷりの麻婆豆腐。そしてエビフライ。野菜サラダ。デザートは三宅さん手作りのケーキです。どれも本当に美味しく頂きました。

料理の開始から片付けが終わるまで、三時間半程でしたが、芳田教室が始まって十二年、さすがこの連係プレーは、衰えていませんでした。もちろんおしゃべりも、止まることはなかったです。

ただ一つ違うのが、エプロンをした小林先生が、調理台を回りながら、シャッターを切る音が聞こえなかったことでした。

でも、小林先生は宴会が大好きだ



左から益田さん、山根さん、守本さん



左は守本さん、右は三宅さん

次回の新聞発送作業は1月30日(火)午前10時半から民主会館階で行います。前回お手伝いくださった方です。

犬飼 貝吹 河井 真田